

かけ橋

まだ見ぬ君へ…



うららかな三月のある日、元吉原公民館で地域のひとり暮らしのお年寄りを対象とした「ふれあい昼食会」が催されました。

ふれあい昼食会

元吉原地区の民生児童委員と健康づくり推進員が中心となつて行われている、この「ふれあい昼食会」は、送迎ボランティアを初めとする多くの人たちの協力を得て、今回で十九回目。

この日は、まず食事前に地区担当の保健婦の指導による健康体操で体を動かし、読み聞かせボランティア「あ

おむしの会」が手づくりで制作したちぎり絵の紙芝居、地域にお住まいの藤田さん夫妻や民生児童委員の城所さんによる見事な手品などで楽しみました。



そして、いよいよお待ちかねの昼食。この日の献立は、ひな祭りにちなんだ華やかな彩りの押しずしを初め、減塩とカルシウム摂取を心がけたハマグリのお吸物とホウレンソウのゴマあえ、フルーツいっぱい牛乳寒天など、とても一度には食べ切れないほどのごちそうの数々。お年寄りの皆さんは、残りを大事に包んで持ち帰ります。

また、食後には元吉原幼稚園の園児が訪れ、歌やメロディオン演奏を披露。みんな思わず目を細め、童心に帰って拍手喝采していました。楽しく過ごした早春のひととき。参加した皆さんは、とても満足げに笑みを浮かべ、家路につきました。

主な乱用薬物の種類

俗称	副作用	使われ方	種類
シャブ、スピード(S)	食欲は減退。	結晶を水に溶かして静脈注射、加熱して煙を吸入など。	興奮剤
コーク(C)、パウダー	鼻血、気落ち。精神分断的状態も。短期間に心身崩壊。	結晶を微細な粉末にしてストローなどで鼻孔に吸入。	興奮剤
ハッパ、クサ、グラス	判断能力の低下など。	大麻を乾燥させたもの。喫煙使用が主。	(中間)
H、ヘロ、最後の薬物	禁断症状は重い風邪と酷似。一回の注射で依存症が成立。	モルヒネをともに合成。注射、鼻孔吸入、喫煙など。	抑制剤
L、ドット、アシッド	不眠、動揺、興奮、発汗など。品質により錯乱、昏睡など。	短筒筒形のマイクロー・ドットと呼ばれる極小錠剤を服用。	幻覚剤

覚せい剤の使用は、多くの人には無縁かもしれませんが、平成八年に富士警察署が検挙した覚せい剤事犯は百四人。そのうち約六〇％は、十代と二十代の若者でした。覚せい剤を安易に使用してしまうことにより、私たちの身近にまで覚せい剤の影が及び寄ってきています。その対抗手段として、私たち一人一人が覚せい剤を初めとする、さまざまな薬物に関する知識を身につける必要があります。

覚せい剤、アヘン系麻薬(ヘロインなど)、マリファナ、コカイン、LSD、シンナーなどの有機溶剤…。これらの薬物の乱用は、使用者の精神や身体をむしばむだけでなく、幻覚や妄想を引き起こし、殺人などの凶悪犯罪や悲惨な事故を生み出す原因となり、恐ろしいものです。薬物使用の副作用はさまざまです。しかし、乱用し続けて最後に待ち受けるものは、いずれも「死」しかありません。

忍び寄る覚せい剤の影(2)

